

## 令和3年鴨川市 10大ニュース詳細

順位	出来事（月）	詳細
1	市民が主役のまちづくりを目指し 長谷川孝夫市長の新市政がスタート（3月）	<p>3月7日に行われた「鴨川市長選挙」で長谷川孝夫氏が当選し、3月13日付けで鴨川市長に就任しました。</p> <p>3月15日には、職員や多くの支援者に迎えられ、市役所に初登庁しました。「市民が主役のまちづくり」を目指す長谷川市長は、「ふるさと鴨川を再生し、すべての産業の強化により、『活力あふれる健やか交流のまち』実現のため、誰もが『夢』を持ち、そして『豊かさ』を実感できるまちづくりを進めていきます」と意気込みを語りました。</p> <p>なお、鴨川市長を1期4年務め、任期満了を迎えた亀田郁夫氏が3月12日、市役所で多くの職員や市民に見送られながら退任しました。</p>
2	地域に愛され必要とされる病院へ 新しい市立国保病院がオープン（5月）	<p>平成29年から本格的に進めていた鴨川市立国保病院の建て替え工事が完了し、5月1日に開院しました。</p> <p>施設は、鉄筋コンクリート一部鉄骨造り3階建て、延床面積約5,112.15平方メートル。1階は外来診察室を主に、検査や手術・処置室、リハビリ室、地域包括ケアセンターなどが設けられています。2・3階は病棟となり、プライバシーや感染症に配慮した個室を基本としています。病床（ベッド）数は各階35床で合計70床。内訳は回復期病床52床、慢性期病床18床です。</p> <p>新病院は、「災害時に市民を支える」「これからの公的医療を推進する」「まちの活性化を支える」の3つがコンセプト。基本方針である「地域に愛され必要とされる病院」として、これまで以上に市民皆さんに親しまれる地域の中核病院を目指します。</p>

順位	出来事（月）	詳細
3	<p>新型コロナウイルスワクチン接種が順調に進む            鴨川市の2回接種率は12月5日時点で全国平均を大きく上回る88.5%（通年）</p>	<p>市民皆さんに新型コロナウイルスワクチンを迅速に接種していただけるよう、市では2月1日、新型コロナウイルスワクチン接種準備室を健康推進課内に設置しました（現在は接種推進室）。</p> <p>3月から医療従事者の優先接種を、6月から65歳以上の一般の方を対象に接種を開始。集団接種を市内では亀田クリニックで、個別接種を市内6カ所の医療機関で実施しました。その後、接種対象年齢を段階的に引き下げ、集団接種会場を総合運動施設の文化体育館に変更、個別接種については市立国保病院を中心に展開するなど、市民皆さんの接種を推進しました。</p> <p>鴨川市の2回接種率は88.5%で、全国平均の77.1%を大きく上回っています（12月5日時点）。</p> <p>現在、国が示した方針のとおり、3回目接種に向けた準備を進めている状況です。</p> <p>令和3年中は、県内に緊急事態宣言が2回発令され、不要不急の外出自粛や、一部施設の休業など、国・県からさまざまな要請を受けました。7月22日に2年ぶりの開設となった海水浴場も8月2日の宣言により急遽閉鎖となりました。市では、このような状況を受け、生活費の貸付や税・保険料減免などの生活支援と、農林水産業者や中小企業者・個人事業者への支援金などの経済支援を実施してきました。</p> <p>市民皆さんの感染拡大防止へのご協力と、順調にワクチン接種が進んだことにより、市内では10月6日以降、感染者の発生はない状況です（12月10日現在）。</p>

順位	出来事（月）	詳細
4	<p>東京 2020 オリンピック・パラリンピックが開催</p> <p>聖火リレーの代替イベントに鴨川市からは久根崎克美さんが参加（7月）</p> <p>女子サッカーオランダ代表の事前キャンプを総合運動施設で受け入れ（7月）</p> <p>パラリンピック聖火を西条小児童が採火（8月）</p>	<p>千葉県内の東京 2020 オリンピック聖火リレーの代替イベントが、7月1日から3日まで行われました。新型コロナウイルス感染症の影響で、公道でのリレー走行が中止となり、ランナーがひとつの場所に集まってトーチに灯した聖火をつなぐ「トーチキス」を行う点火セレモニーに変更。初日は、山武市の蓮沼海浜公園で行われ、鴨川市からは久根崎克美さんが参加しました。久根崎さんは、心のバリアフリーやユニバーサル社会の推進に取り組んでおり、難病ALS（筋萎縮性側索硬化症）のため、在宅医療を続けています。介助者の皆さんと共に登壇すると、晴れやかな表情で聖火をつないでいきました。</p> <p>東京オリンピックに出場する女子サッカーのオランダ代表が、7月7日から17日まで、市内の総合運動施設で事前キャンプを行いました。選手たちからは「この施設のピッチ（芝）の状態は素晴らしい。最高」と高い評価を受けました。また、10日には歓迎セレモニーが行われ、市内の小中学生が勝利を願って折ったオレンジ色の千羽鶴と、伝統工芸「万祝」のマスクが贈呈されました。キャプテンのサーリ・ファン・フェイネンダール選手は「私たちは皆さんと同じくらいの歳からサッカーを始め、夢を持って練習し、オリンピックに出場するために今ここにいます。皆さんもがんばって。私たちもがんばります」と子どもたちへ熱いメッセージを伝えました。</p> <p>オリンピック・パラリンピック教育推進指定校の西条小学校で8月18日、東京パラリンピック聖火の採火が行われました。児童たちは、ライターやマッチを使わず、木の棒を回転させ摩擦熱を利用するマイギリ式や、硬い石と鋼鉄を打ち合わせる火花式で、火種作りにチャレンジしました。この火は、同日に市原スポレクパークで行われた集火式にランタンで運ばれ、各市町村の火を集めた「千葉県の火」に。最終的には全国47都道府県から集められた火と一緒に、国立競技場で聖火となりました。</p>

順位	出来事（月）	詳細
5	災害に強い安全・安心な道路へ 清澄山道ループ橋が開通 （9月）	<p>清澄・四方木地区へのアクセスや防災機能向上のため、千葉県が進めていた主要地方道市原天津小湊線の坂本工区（清澄山道ループ橋）が、9月13日に開通しました。今回開通するバイパス区間は延長700m、うちループ橋部は192mです。当該区間は、もともとすれ違いが困難な狭隘道路で、土砂崩れなどによりたびたび通行規制がかかる箇所でした。この問題を解消するため、千葉県では、平成3年度に坂本工区の整備に着手。平成19年までに橋の北側800mと南側1km区間の道路改良を完了しています。安房地域で初めてとなるループ橋は、平成13年度に着工。狭隘部分を避け、急峻な地形に2車線道路のバイパスとして整備されました。</p> <p>この開通により、清澄・四方木地区住民の利便性が向上するのはもちろん、周辺の観光地「清澄寺」や「四方木不動滝」へのアクセスが向上し、加えて災害に強い安全・安心な道路となり、地域防災力の向上にもつながると期待されています。</p>
6	日蓮聖人生誕800年を地域と寺院が共に祝う 記念イベント「日蓮のあかり800年」を開催（2月）	<p>鴨川の偉人・日蓮聖人の生誕800年を迎えた2月16日、小湊の誕生寺では、50年に1度の慶讃大法要のほか、竹灯籠のライトアップや三奇瑞をイメージしたレーザービーム、報恩献灯花火など、「光」をテーマに、コロナ収束の願いを込めたさまざまな記念イベントが行われました。</p> <p>祖師堂では、音楽グループ「KAGARI-灯」が日蓮聖人をテーマとした曲など3曲を披露。二十五弦箏や薩摩琵琶、フルートの音色と演舞で、会場は幻想的な雰囲気になりました。</p> <p>宝物館では、人気ゲーム「ファイナルファンタジー」のキャラクターデザインなどで世界的に有名なイラストレーターの天野喜孝氏が描いた法華経画が公開され、これを目当てに遠方から訪れた方もおり、賑わいを見せていました。</p>

順位	出来事（月）	詳細
7	<p>情報を迅速かつ幅広く提供 市ホームページがリニューアル（8月） 市公式LINEアカウントの配信をスタート（9月）</p>	<p>鴨川市のホームページが8月31日にリニューアルし、デザインや機能を一新しました。</p> <p>入口となるゲートページでは、観光地・鴨川にふさわしい季節ごとの魅力的な写真で、閲覧者をおもてなしします。また、検索ボタンを設けるほか、市民向け・観光客向け・移住希望者向けなど対象者ごとに入口を分けることで、知りたい情報のページへ最短でたどり着ける設計としています。生命にかかわる緊急情報や重要なお知らせは、目立つ位置に配置しています。文字サイズ変更やふりがな機能、読み上げ機能を標準仕様として導入し、障害のある方はもちろん、誰もが見やすいようウェブアクセシビリティに配慮しています。</p> <p>また、9月1日から配信をスタートした市公式LINEアカウントをはじめとする各種SNSや安全・安心メールとの連携により、災害情報や新型コロナウイルス関連情報などを、迅速かつ幅広く提供・拡散できるようになりました。</p>
8	<p>城西国際大学と土地返還・施設保全のための基本協定を締結（1月）</p>	<p>市では、1月12日、城西国際大学安房キャンパスの閉鎖に係る基本協定を締結しました。</p> <p>太海多目的公益用地の開発の上に成り立っていた城西国際大学観光学部は、大学の存続を前提に無償譲渡したものです。土地の返還は、今後の利活用を図るうえでも必要不可欠となります。行政として、将来に向けしっかりと対応を行うため、基本協定を締結したものです。</p> <p>この協定は、無償譲渡した土地や大学施設を、権利関係などを含め、現状有姿のまま保全することを目的としています。具体的には、市が大学に譲与した土地を、無償で返還することを前提に、誠意をもって諸問題解決のために協議を行うこと、大学側は、市の承諾を得ないで土地・大学施設を第三者に使用させ、また、譲渡してはならないこと、などを規定しました。</p> <p>なお、市では現在、今後の施設などの利活用について、検討を進めています。</p>

順位	出来事（月）	詳細
9	<p>スポーツ・文化を通じた交流の場 小湊さとうみ学校が完成（8月）</p>	<p>旧小湊小学校を活用した「小湊さとうみ学校」が8月31日に完成しました。</p> <p>平成31年3月で廃校となった小湊小学校の利活用については、「小湊小・中学校の跡地活用を中心とした地域の活性化を考える100人会議」などでの議論を経て、コンセプトを「『学び』『集まり』『見つける』場」として定め、「地域内外とのスポーツ・文化交流の促進」をテーマに合宿施設として改修を行いました。</p> <p>3階建ての交流棟は客室、浴室のほか、多世代交流ができる文化交流室、多目的室、バリアフリーに配慮したエレベーターや多目的トイレなどの施設を備えています。体育館には空調設備が設置され、夏や冬でも快適にスポーツや文化活動をお楽しみいただけます。また、屋外のフットサルコートには人工芝が敷かれ、38m×18mのコート3面が設けられています。3面すべてを利用すると、8人制サッカーを行うことができます。施設のオープンは、令和4年2月を予定しています。</p>
10	<p>前原・横渚海岸周辺エリアの活性化に向け 魅力体験広場で賑わい創出を担う民間事業者を公募により選定（12月）</p>	<p>市では、令和3年9月から供用を開始した「魅力体験広場」について、さらなる賑わい創出や地域活性化を図るため、広場を利活用する民間事業者を公募により選定しました。</p> <p>事業者は、今後、魅力体験広場に新たな施設を整備し、クラフトビールの製造販売や、ベーカリー&amp;カフェ、浜焼きバーベキュー、お土産品の販売、チャレンジショップなどの事業を行う予定です。事業の開始は令和4年の夏を目指しており、年間約24万人の入込客数を見込んでいます。</p>